

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		3/28-4/4	4/4-4/11	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.110	0.068
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.053	0.039
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.045	0.036
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.073	0.058
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.037	0.028
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.055	0.052
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.042	0.031
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.071	0.050

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		3/28-4/4	4/4-4/11	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.028	0.044
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.030	不検出

検出限界値はおおむね0.02～0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

渡邊正己 京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説

第83回目 大気浮遊じん放射能測定結果の解説
(平成30年3月28日～平成30年4月11日)

平成30年3月28日～平成30年4月11日の間の南相馬市における大気浮遊じんに含まれる放射能は、放射線セシウム134は観測されず、放射性セシウム137は平均0.048mBq/m³と低い値でした。成人は、1日におよそ15 m³の空気を取り込んでいます注1が、今回の濃度の放射性セシウムを全て体内に取り込んだとしても、その総量は、0.72mBq程度で、ひとが1日に食事を介して取り込む放射エネルギー(およそ130Bq注2)に遠く及ばず健康影響を心配する必要はありません。

注1 1日の呼吸量は、どういう状態で過ごしているかによってかなり変動しますが、一回あたり0.5リットル、一分間に20回程度呼吸するとすれば、14,400リットル(0.5リットル×20回/分×60分/時間×24時間=14,400リットル)程度となります。

注2 新版「生活環境放射線(国民線量の算定)」、公益財団法人原子力安全研究協会、平成23年12月発行。